

琉球大学学術リポジトリ

巻頭言：琉球大学を卓越した教育拠点に

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲地, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42271

巻頭言 琉球大学を卓越した教育拠点に

大学教育センター長

仲 地 博

平成3年大学設置基準が大綱化され、本学においても大学教育の見直しと改善に着手することになった。その結果、本学評議会は、平成6年12月27日、「本学における大学改革等について」を承認した。教養部の発展的解消に伴う全学にわたる改革案である。この決定の下で、「組織及び運営見直し検討委員会」は、「大学教育の実施体制について」審議している。それによると①大学教育センターは省令施設とし、②センター長は副学長、③部門長の二人は専任教授とする強力なセンターが構想された。この構想は3点とも実らなかった。

とはいっても、大学教育センターは全学の協力の下で順調に運営されている。センター長、両部門長は評議員であり、また学長の裁量によって講師が併任されている。全国的にみてもしっかりした基盤を持ったセンターの部類に入る。大学教育センターに対する全学的理解なくしてできることではない。共通教育も全学出動で年を追って充実している。

琉球大学に対しては、「特筆すべき教育熱心な大学」という教育学者の評価があり（浅野誠中京大学教授「大学の授業を変える16章」）、また科学研究費による全国調査によっても、教育を重視する教官が多いことが明らかになっている。私達はこのような評価や実態を誇りとしたい。

しかし、これで満足してはならないこともまた自明である。学生アンケートを見ると、学生は琉球大学の教育方針を重視して琉球大学を選んだのではない。授業への満足度も決して高くない。大学において教育を重視することの必要性は、現在から将来

に向かいますます強まりこそすれ弱まることはない。社会が求めている「学生中心、教育重視の大学」へどう作りあげて行くか、琉球大学もまた問われている。

現在琉球大学の中期計画が策定途上にある。現在は学長案の段階であるが、その第一の柱が教育に当てられていることを評価したい。

大学教育センターも中期計画案を検討しているが、その目標は琉球大学をして教育の一流大学たらしめることにある。教育によって全国の大学の範になる大学としたい。すなわち、本学の教育・学習の内容と方法のすべての面において全国最高水準のものとし、さらにそれを本学内にとどまらず、全大学に普及する役割をになった、全国区型の大学—卓越した教育拠点—となることを目指している。それが研究にも好影響を与えることにもなり、また地域に貢献することにもなろう。

大学教育センターは今、全力を挙げて教育改善の運動を展開している。平成12年度でFDワークショップを4回、公開研究授業を2回、シンポジウムを3回遂行した。外部評価も最高のレベルで展開中である。プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの検討も開始されている。琉球大学でいい教育を受けたと、学生が誇りと喜びを持てる大学に必ずやなれると確信する。

しかし、この水準を越えて、琉球大学を卓越した教育拠点にまで作り上げて行くには、今の陣容では不足である。当初構想を原点とし、それを上回る強力な組織と機能の大学教育センターが必要であることを訴えたい。